

メディア上の「寝た子を起こす」情報の調査研究 —喫煙防止教材の影響—

米 澤 朋 英

(文教大学付属教育研究所客員研究員)

Investigations on Information that Makes Sleeping Children Awake in the Media ; Influence of Smoking-Prevention Education by Visual Aids

YONEZAWA TOMOHIDE

(Guest Researcher of Institute of Education, Bunkyo University)

要 旨

近年、インターネットで配信される情報で、子どもたちが犯罪被害に巻き込まれる事件が起きている。本調査研究は、子どもが特定の情報に接触することにより、社会規範から逸脱した行動を呼び起こされるメカニズムを解明するために実施した一調査である。今回は、喫煙防止の教材ビデオを視聴する前後のタバコに関する興味の変化を調査した。視聴後23.4%の回答者が喫煙に興味を示した。

1. はじめに

①寝た子を起こす情報の定義

寝た子を起こす情報とは、「ようやくおさまった騒ぎに、無用な手出しをして、再びやかい事態を引き起こすこと。また、せっかく忘れかけていたことを思い出させるようなことをするたとえ。」「(寝静まった子を起こして騒がしくする意から) 静穏になったのを、つまらぬ事をして元の騒然たる状態にする。忘れかけていた事を思い出させて、また問題を起こす。」など、過去に起きた本来望まない事態をもう一度呼び起こす意味で使用される。

これに類する言葉では、「日向で埃を立てる。」「平地に波瀾を起こす。」「波紋を投ずる。」などが日本語ではある。また英語では、「Let sleeping dogs lie. (眠っている犬は寝かしておけ)」、「It is ill to waken sleeping dogs. (寝ている犬を起こすのはよくない)」、

「Wake not a sleeping lion. (眠れる獅子を起こすな)」などがある。

本論文で使用する「寝た子を起こす」という言葉の意味は、2つの意味がある。1つは「過去に起きた本来望まない事態を、再度起こす。」という本来の意味である。もう1つは、「過去には起きてないが、好ましくない事態が起きてしまう。」という意味でも用いている。「好ましくない事態」とは、子どもにとって好ましくない状況を指し、「社会規範から逸脱した状態を引き起こす。」ことを意味している。この状態は、人間の本能に基づく行動を引き起こすことも含むこととする。

次に「寝た子を起こす情報」の「情報」について考察してみる。ここで使用する「情報」は、子どもがメディアを通して接触する情報という意味で限定的に使用する。

接触する方法は様々である。形態について

II. 自由研究

分類すると大きく2つに分けられる。1つは、テレビやビデオなどマスメディアの方式である片方向通信で提供される情報形態である。もう1つは、インターネットのサイトや、携帯電話でアクセスできるコンテンツなどの双方向通信で得られる情報形態である。ここ数年は、後者の形態のコンテンツが増加しており、それに関連して子どもが巻き込まれる事件・事故が増えてきた。今後、研究を進めて行く上では、上記の両方の情報形態を取り扱うが、今回は、前者の片方向通信の1つであるビデオ教材を使用して検証することとする。

続いて子どもが接触する情報の種類を考察してみる。過去にも「寝た子を起こすな」と表現されていた情報がいくつかある。

・ 同和問題

その1つは人権問題の情報である。部落差別論は、「そっとしておけば自然と差別がなくなる」に基づいた「寝た子をおこすな」的な考えは根強く残っている。1965年内閣同和対策審議会答申により、「同和問題はなくなる」と次のように指摘されている。

「(略)したがって、いかなる時代がこようと、どのように社会が変化しようと、同和問題が解決することは永久にありえないと考えるのは妥当でない。また、「寝た子をおこすな」式の考えで、同和問題はそのまま放置しておけば社会進化にともないいつとはなく解消すると主張することにも同意できない。(略)」

・ 性教育（性に関する情報）

もう1つは性に関する情報である。元来、「性」に関する情報は、日本ではタブーの範疇にあった。戦後の混乱期には、青少年の不良化と男女の不純な交遊が問題視されている。

「(略)戦後の混乱の時期において、教育上憂慮すべき事象として青少年の不良化及び男女の不純な交遊の問題があった。二十四年六月には青少年問題に関係のある各省庁間の連絡・調整を行い、青少年対策を推進するため

の機関として、内閣官房に青少年問題対策協議会（後に中央青少年問題協議会と改称）が設置された。また、純潔教育について、二十四年一月には「純潔教育基本要項」が発表された。（学制百二十年史 第二編 第一章 第七節 社会教育の諸活動）」

その後、日本の性教育は、1965年頃まで「純潔教育」が実施された。その教育対象は女性が中心であり、貞操を守る重要さが、教えられていた。後に「純潔教育」は「性教育」と呼称を変える。教師は、適切な教材が無い時代には、「性」を教えることの難しさからか、「性教育」から遠ざかる傾向があった。また、性の問題は多種多様であるため、個々の学校によって実態を踏まえた対応が必要となる。そのためか踏み込んだ対応が実施されていないのが実態である。また、近年、コンドームの装着方法を教えるのに当たり、教え方が適切でなかったと指摘される記事があった。一部では、性教育の行き過ぎを指摘する声もでてきている。このように「性」については「寝た子を起こす情報」となりうる可能性があることが指摘されている。

寝た子を起こす情報は、必ずしも全ての子どもたちにとって有害な情報とは限らず、受け手（子ども）によってその情報に接触したときにとる態度や行動が異なる。つまり、同じ情報を与えても「寝た子を起こす情報」と受け取り社会規範から逸脱する子どもと、逸脱する子どもがいることになる。

上記の考察を踏まえて本調査で使用する「寝た子を起こす情報」の定義を試みると以下ようになる。

「その情報に接した子どもが社会規範から逸脱する思想及び行為を誘発する可能性がある情報」。

②本調査の目的

子どもに情報を与えた場合、どのくらいの割合で、本来の教育意図とは異なる好ましくない思想や行動を誘発するのかは、データと

しては把握されていない。教育現場では、子どもたちに教えると、本来と異なる解釈をし、社会規範から逸脱する思想や行動を起こす子どもたちはごく少数だが見受けられた。例えば、禁煙教育をするとタバコに興味を持つ子どもが増えるといわれている。

今回は、「寝た子を起こす情報」になる可能性があると考えられる「禁煙教育の情報」を提供して、調査を行い、喫煙への興味の変化を測定することを目的としている。

教育現場では、教師の目が届く範囲で起こる社会規範を逸脱する行動は、その場で指導と改善を行うことができる。今日は情報機器が発達したため、子どもが個々の情報端末（携帯電話等）を所有しており、教師や親が知らない時間や場所で子どもたちが、「寝た子を起こす情報」に接する可能性が増加しており、子どもの思想や行動の逸脱を大人が監視することが難しくなっている現状がある。

その他、今回の調査とは別に「寝た子を起こす情報」を考察する上で目的とする事柄がいくつかある。1つは、どんな情報が寝た子を起こす情報になりうるかという点。もう1つは、寝た子を起こす情報に接したときに、社会規範から逸脱する思想や行動を誘発する原因を解明し、できる限り社会規範から逸脱するのを防ぐという点である。社会規範から逸脱する行動を防ぐという意味は、子どもを完全に監視するという意味ではない。子どもの成長には、逸脱する行動も必要だと考える。しかし、命まで奪われるような事件や事故には巻き込まれてはならないという意味で、監視が必要だと考える。子どもたちが様々な情報に接触する機会が増えた情報社会において、メカニズムが解明されることが急務とされている。

2. 調査概要

①日時：2006年7月18日～20日

②対象：大学生、短大生、専門学校生203名（男性：88名、女性：111名、無回答：4名）

③回収率：100%

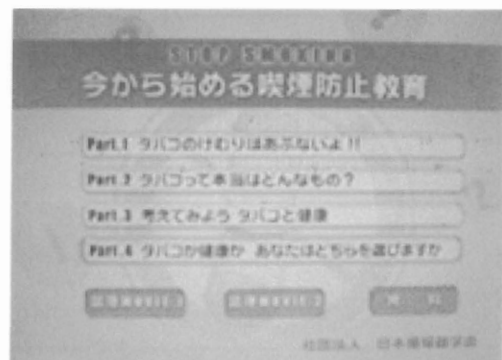
④実施方法：講義時に20分の調査時間を学生に協力してもらい設けた。約17分の喫煙防止ビデオ（DVD）を視聴してもらい、視聴前後に調査を実施した。視聴に使用したDVDは、社団法人日本循環器学会が企画・著作を持つ「今から始める喫煙防止教育」である。このDVDは、小学校3年・4年向けの教材から一般・大学生向けの教材まで、表現方法変えた4つのパートに分かれている。今回の調査で使用したのは、パート4の一般・大学生向けのコンテンツで、「タバコか健康か、あなたはどちらを選びますか」という17分の映像である。

調査は、「喫煙の関心調査」という目的で実施しており、視聴前後の映像の影響を測定することは調査時には説明していない。無記名で実施し、喫煙経験の有無については、講義及び成績とは関係ないことを説明してから実施している。

⑤視聴方法：DVDプレーヤーを用意し、ビデオプロジェクターで、教室の前面のスクリーンに投影した。教室の明るさは、スクリーンが視聴できる程度に照明を調整した。目安は本の字が読める程度の明るさである。音声と音楽は、教室の備え付けのスピーカーから出した。

図1～3は、DVDのビデオの映像である。

図1 メインメニュー



II. 自由研究

図2 タイトル

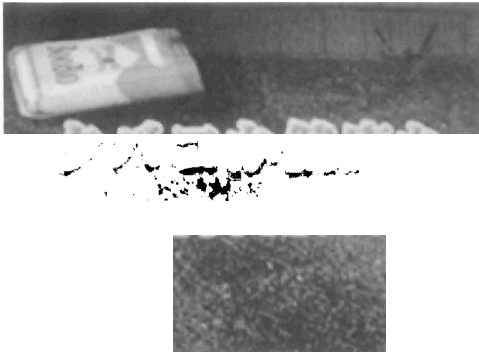
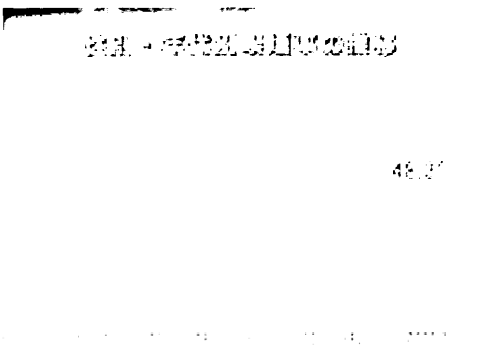


図3 教材の一場面



(6) 調査用紙記入と回収

アンケート記入は、照明を明るくしてから実施した。視聴前は、記入についての説明を行った後に記入してもらい、全員の記入が終わった時を目安として上映を始めた。視聴後の記入は、上映終了後に合図をしてから記入してもらい、全体が終わるのを確認してから回収した。記入時間は、視聴前視聴後とも1分前後であった。

3. ビデオ視聴前の調査結果

ビデオ視聴前の調査結果は、喫煙防止ビデオ視聴前の調査結果を示している。最初に学生の喫煙状況について、概観してみる。

① 喫煙本数とその割合

表1では、全体の80.8%が現在は喫煙していない（非喫煙者）という結果がでた。厚生労働省の平成15年度国民健康・栄養調査によると、日本人の20歳～29歳までの喫煙者の割合は、男性58.9%、女性24.2%になる。今回

の調査では、男性21.6%（19人）、女性16.2%（18人）と喫煙者の割合は、かなり低い結果になった。

表1 喫煙本数とその割合（N=203）

| 単位：人 | | | | |
|-------------|----|----|------|-----------|
| 喫煙本数(1日当たり) | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
| 20本以上 | 4 | 3 | 0 | 7(3.4) |
| 10本～19本 | 7 | 10 | 1 | 18(8.9) |
| 10本未満 | 8 | 5 | 0 | 13(6.4) |
| 吸わない | 68 | 93 | 3 | 164(80.8) |
| 無回答 | 1 | 0 | 0 | 1(0.5) |

② 非喫煙者の喫煙の興味

表2は、非喫煙者のビデオ視聴前における喫煙欲求状態を示している。吸いたいと思うと回答者が8人いる。

その理由は、以下の通りである。

「少し興味がある」、「なんとなく」、「以前に吸っていたから」、「好奇心」、「ストレスがたまると吸いたくなる」等の回答があった。

表2 ビデオ視聴前の喫煙欲求（N=164）

| 単位：人 | | | | |
|-----------|----|----|------|-----------|
| 喫煙欲求 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
| 吸いたいと思う | 1 | 7 | 0 | 8(3.9) |
| 吸いたくないと思う | 63 | 84 | 3 | 150(73.9) |
| 無回答 | 4 | 2 | 0 | 6(3.0) |

③ 喫煙者の禁煙願望

表3は、ビデオ視聴前のタバコを止めたい禁煙願望がある喫煙者の数を示している。

表3 喫煙者の禁煙願望（N=38）

| 単位：人 | | | | |
|-------------|---|---|------|----------|
| 喫煙本数(1日当たり) | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
| 20本以上 | 2 | 3 | 0 | 5(2.5) |
| 10本～19本 | 4 | 5 | 0 | 9(4.4) |
| 10本未満 | 2 | 3 | 0 | 13(6.4) |
| 無回答 | 1 | 0 | 0 | 1(0.5) |

表3と表1を参照すると以下の人数の喫煙者が禁煙したいと考えている。

- ・ 1日に20本以上吸う喫煙者は7人中5人
- ・ 1日10本～19本吸う喫煙者は18人中9人
- ・ 1日10本未満 吸う喫煙者は13人中13人

1日の喫煙本数が少ない回答者程、禁煙したいという願望は高くなる傾向がある。本数が多い喫煙者は、喫煙を正当化する回答が多い。

④環境の影響

表4-1～8は、周囲に喫煙者がいるかどうかを示している。

表4-1 1日20本以上吸う回答者の家族の喫煙率 (N=7) 単位:人

| 環 境 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
|------------|---|---|------|---------|
| 家族に喫煙者がいる | 4 | 1 | 0 | 5(71.4) |
| 家族に喫煙者がいない | 0 | 2 | 0 | 2(28.6) |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0(0.0) |

表4-2 1日20本以上吸う回答者の友人の喫煙率 (N=7) 単位:人

| 環 境 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
|------------|---|---|------|----------|
| 友達に喫煙者がいる | 4 | 3 | 0 | 7(100.0) |
| 友達に喫煙者がいない | 0 | 0 | 0 | 0(0.0) |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0(0.0) |

表4-1からは、1日20本以上吸う回答者の家族の喫煙率は、71.4%である。表4-2からは、友人の喫煙率は、100.0%であることがわかる。

表4-3 1日10本～19本吸う回答者の家族の喫煙率 (N=18) 単位:人

| 環 境 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
|------------|---|---|------|----------|
| 家族に喫煙者がいる | 3 | 6 | 1 | 10(55.6) |
| 家族に喫煙者がいない | 3 | 4 | 0 | 7(38.9) |
| 無回答 | 1 | 0 | 0 | 1(5.6) |

表4-4 1日10本～19本吸う回答者の友人の喫煙率 (N=18) 単位:人

| 環 境 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
|------------|---|----|------|----------|
| 友達に喫煙者がいる | 6 | 10 | 1 | 17(94.4) |
| 友達に喫煙者がいない | 0 | 0 | 0 | 0(0.0) |
| 無回答 | 1 | 0 | 0 | 1(5.6) |

表4-3からは、1日10本～19本吸う回答者の家族の喫煙率は、55.6%である。表4-4からは、友人の喫煙率は、94.4%であることが分かる。

表4-5 1日10本未満吸う回答者の家族の喫煙率 (N=13) 単位:人

| 環 境 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
|------------|---|---|------|---------|
| 家族に喫煙者がいる | 5 | 4 | 0 | 9(69.2) |
| 家族に喫煙者がいない | 3 | 1 | 0 | 4(30.8) |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0(0.0) |

表4-6 1日10本未満吸う回答者の友人の喫煙率 (N=13) 単位:人

| 環 境 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
|------------|---|---|------|-----------|
| 友人に喫煙者がいる | 8 | 5 | 0 | 13(100.0) |
| 友達に喫煙者がいない | 0 | 0 | 0 | 0(0.0) |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0(0.0) |

表4-5からは、1日10本未満吸う回答者の家族の喫煙率は、69.2%である。表4-6からは、友人の喫煙率は、100.0%であることが分かる。

表4-7 非喫煙者の家族の喫煙率 (N=164) 単位:人

| 環 境 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
|------------|----|----|------|----------|
| 家族に喫煙者がいる | 40 | 53 | 1 | 94(57.3) |
| 家族に喫煙者がいない | 28 | 40 | 2 | 70(42.7) |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0(0.0) |

表4-8 非喫煙者の友人の喫煙率 (N=164) 単位:人

| 環 境 | 男 | 女 | 性別NA | 合計(%) |
|------------|----|----|------|-----------|
| 友人に喫煙者がいる | 63 | 78 | 3 | 144(87.8) |
| 友達に喫煙者がいない | 5 | 13 | 0 | 18(11.0) |
| 無回答 | 0 | 2 | 0 | 2(1.2) |

表4-7からは、非喫煙者の家族の喫煙率は、57.3%である。表4-8からは、友人の喫煙率は、87.8%であることが分かる。

4. ビデオ視聴後の調査結果

続いてビデオ視聴後の調査結果を示す。

- ①ビデオ視聴後にタバコを吸いたくなった人
これは、ビデオを視聴した直後に調査用紙に記入してもらった結果である。

II. 自由研究

表5 ビデオ視聴後にタバコを吸いたくなった回答者 (N=201) 単位:人

| 喫煙本数(1日当り) | 思う | 思わない | 合計 |
|------------|----------|-----------|------------|
| 1日20本以上 | 6(85.7) | 1(14.3) | 7(100.0) |
| 1日10本~19 | 12(66.7) | 6(33.3) | 18(100.0) |
| 1日10本未満 | 11(84.6) | 2(15.4) | 13(100.0) |
| 吸わない | 18(11.0) | 145(89.0) | 162(100.0) |
| 合計 | 47(23.4) | 154(76.6) | 201(100.0) |

表5は、ビデオ視聴後にタバコを吸いたくなった回答者の人数である。47人(23.4%)の回答者がタバコを吸いたくなったと回答した。視聴前の調査でタバコを吸わないと回答した回答者も18人がタバコを吸いたくなったと回答している。

②喫煙防止のビデオ等を見た経験

表6は、小学校から高校まで過去に喫煙防止のビデオや映画を見た経験の有無を示している。

表6 喫煙防止ビデオや映画を視聴した経験の有無 (N=197) 単位:人

| 喫煙本数(1日当り) | ある | ない | 合計 |
|------------|-----------|----------|------------|
| 1日20本以上 | 1(33.3) | 2(66.7) | 3(100.0) |
| 1日10本~19 | 14(77.8) | 4(22.2) | 18(100.0) |
| 1日10本未満 | 10(76.9) | 3(23.1) | 13(100.0) |
| 吸わない | 130(78.9) | 33(20.2) | 163(100.0) |
| 合計 | 155 | 42 | 197(100.0) |

全体の155人(78.7%)の人が過去になんらかの喫煙防止の教育を受けている。喫煙をしている人が特に喫煙防止教育を受けていないわけではないようである。

5. 考察

次のような仮説をたて、調査を実施した。仮説に基づいて検証してみる。

仮説1: 家族や友人に喫煙者がいる場合、ビデオの視聴後に喫煙への興味を示す割合が高くなる。

仮説2: 家族や友人に喫煙者がいる場合、喫

煙を肯定する割合が高くなる。

仮説3: 喫煙者は、喫煙を肯定する傾向がある。

①仮説1の検証

表7 家族の喫煙者有無による視聴後の喫煙への関心度(N=201) 単位:人

| | 吸いたいと思う | 吸いたいと思わない | 合計 |
|--------|----------|-----------|------------|
| 家族にいる | 29 | 88 | 117(58.2) |
| 家族にいない | 17 | 66 | 83(41.3) |
| 無回答 | 1 | 0 | 1(0.5) |
| 合計 | 47(23.4) | 154(76.6) | 201(100.0) |

表8 友人の喫煙者の有無による視聴後の喫煙への関心度(N=201) 単位:人

| | 吸いたいと思う | 吸いたいと思わない | 合計 |
|--------|----------|-----------|------------|
| 友人にいる | 44 | 136 | 117(89.6) |
| 友人にいない | 1 | 17 | 83(9.0) |
| 無回答 | 2 | 1 | 1(1.5) |
| 合計 | 47(23.4) | 154(76.6) | 201(100.0) |

表7、表8では、回答数が一番多いのは、「家族に喫煙者がいるが吸いたいとは思わない」、「友人に喫煙者がいるが吸いたいとは思わない」であった。吸いたいと思う群だけで比較すると、どちらも喫煙者がいる群の方が喫煙の関心度が高い、これは周囲の環境が喫煙の関心度になんらかの影響を与えていると考えられる。

②仮説2の検証

仮説2は、「家族や友人に喫煙者がいる場合、喫煙を肯定する割合が高くなる。」であるが、喫煙者の回答を分析すると、以下のようなタバコのイメージに関する回答あげている。

- ・無駄。でもいいと思う。
- ・体に悪い、環境に悪い、経済的に悪い、良いのは自分の気持ちが落ち着くだけ。
- ・ストレス発散、ひまつぶし。
- ・くさい?
- ・病気になりやすい。吸っていない人に迷惑をかけている。
- ・作業効率をあげるためのもの、リラックス。

- ・ ストレス解消、間が取れる。ホット一息。
- ・ お酒のお供に。くさい。体によくはない。でもやめられない。
- ・ 吸いたければ吸えばいい。
- ・ おいしい。
- ・ 健康に良くない。ほっとする。かっこいい。
- ・ 体に悪い、吸うと落ち着く、高い
- ・ とくになし。
- ・ 害がある。
- ・ 健康に悪いといいつつさまざまな種類がどこでも打っている。そんな状態なのに禁煙や未成年の喫煙に対してとやかくいうのは、おかしい。本当は禁煙を広めたいなら販売を停止すべき。
- ・ 体に悪い。煙くて、くさい。高い発ガン物質がある。気分がすっきりする。
- ・ 肺がんになる。
- ・ 煙が臭い、依存する、身体に悪い。
- ・ 体に悪い。印象が悪い。男らしい。ストレスがあまりたまらない。おいしい。自分が吸うタバコの種類にあいちゃくがわく。
- ・ においがつく。
- ・ 悪魔。
- ・ 吸うとすっきりする。イライラする時。
- ・ よくない。
- ・ 体に悪い。
- ・ 煙、くさい、肩身が狭い。
- ・ 百害あって一利なし。でもバイトのあとの一服はやめられない。

表9 家族の喫煙者有無によるタバコのイメージ (N=194) 単位：人

| | 肯定的 | 中立的 | 否定的 | 合計(%) |
|--------|---------|----------|-----------|------------|
| 家族にいる | 7(6.2) | 17(15.0) | 89(78.8) | 113(100.0) |
| 家族にいない | 3(3.7) | 12(14.8) | 66(81.5) | 81(100.0) |
| 合計 | 10(5.2) | 29(14.9) | 155(79.9) | 194(100.0) |

表10 友人の喫煙者の有無によるタバコのイメージ (N=181) 単位：人

| | 肯定的 | 中立的 | 否定的 | 合計(%) |
|--------|---------|----------|-----------|------------|
| 友人にいる | 10(5.7) | 26(14.9) | 139(79.4) | 175(100.0) |
| 友人にいない | 0(0.0) | 2(11.8) | 15(88.2) | 17(100.0) |
| 合計 | 10(5.2) | 28(14.6) | 154(80.2) | 181(100.0) |

表9、表10からは、周囲の家族や友人の喫煙者の有無によるタバコのイメージには、大きな差はない。喫煙者の家族がいる回答者は、いない回答者より肯定的なイメージを持つ割合が高くなる。同様に喫煙者の友人がいる回答者も、いない回答者に比べ肯定的なイメージを持つ割合が高い。

このことから、周囲に喫煙者がいることで、タバコのイメージは、喫煙者がいない回答者に比べイメージが肯定的になる傾向がある。

③仮説3

次に喫煙者と非喫煙者もタバコに対するイメージを比較した結果を示す。

表11 タバコに対するイメージ(N=191) 単位：人

| | 肯定的 | 中立的 | 否定的 | 合計(%) |
|------|---------|----------|-----------|------------|
| 喫煙者 | 4(11.4) | 11(31.4) | 20(57.1) | 34(100.0) |
| 非喫煙者 | 3(1.9) | 18(11.5) | 135(86.5) | 164(100.0) |
| 合計 | 7(3.7) | 29(15.2) | 146(81.2) | 191(100.0) |

表11から喫煙者は非喫煙者に比べ、タバコに対するイメージが肯定的、中立的な回答の割合が高い。非喫煙者は、タバコのイメージを否定的に捉えている回答者が86.5%いた。このことから、タバコに対するイメージと喫煙行動には、関係があると推測される。喫煙者は肯定的にタバコのイメージを捉える傾向があり、非喫煙者は、タバコのイメージを否定的に捉える傾向がある。

このような喫煙のイメージは、喫煙者と非喫煙者では、異なることが判明した。また、周囲に喫煙者がいることで、回答者の持つタバコのイメージが肯定的になることも判明した。回答者が元来もっているタバコのイメージに対し、喫煙防止ビデオが刺激として与えられた場合、その時の体調や心の状態等様々な条件が重なって喫煙への興味関心が高まると考えられる。このことから、喫煙防止ビデオは、寝た子を起こす情報になる可能性がある

II. 自由研究

る。

6. まとめ

今回の調査では、協力してくれた回答者が、教育、介護福祉、看護に関係する専攻の学生であり、喫煙の害に対して知識を十分にもっていたように思える。非喫煙率も、全国平均よりも高いのも、専攻による影響だと思われる。

喫煙防止ビデオは、少なからず、何名かの回答者に喫煙の興味を思い起こさせた。人権問題、性教育など、これまでの「寝た子を起こす情報」が様々な論争を起こしている背景には、はっきりした数値的裏づけがないことも、議論を複雑にしていると考えられる。これらの、小さな数値を無視せず見極めて、「寝た子を起こす情報」のメカニズムを解明することが必要と考える。そして、寝た子を

起こす情報に接した時、適切な指導や助言をすることができれば、子どもたちが被害を被らなくて済む可能性が高くなる。どのような情報も「寝た子を起こす情報」となりうる可能性があるなら、教師は、情報を提供した後にも子どもの行動に目を配ることが必要であろう。

7. 引用・参考文献

- 1) 政府同和对策審議会『同和对策審議会答申』1965年
- 2) 文部省『学制百二十年史』ぎょうせい, 1992
- 3) 健康・栄養情報研究会編『平成15年国民健康・栄養調査』第一出版, 2006

8. 巻末資料

調査用紙（縮小版 原版A4サイズ）

調査用紙（縮小版 原版 A4 サイズ）

「喫煙に関する関心の調査」の説明

この調査問紙は、調査の説明（1枚）、質問項目（3枚）の合計4ページから構成されています。質問紙に落丁がないか確認してください。

質問に回答していただく前に、まず初めに、調査の趣意を載んでください。次に、いくつかの質問に答えていただきます。質問の内容は、身の回りの情報に基づいた態度や考え方に關するものです。あまり考えすぎずに気軽に回答するようにして下さい。

なお、この調査は、行動傾向や性格などを個別に測定することを目的として行っているものではありません。また、質問に対する回答は条件ごとに集計するため、全て匿名のものとして扱います。

調査結果発表についてお問い合わせにはお答えできませんが、個別な回答結果については、無記名で回答していただくためお答えできませんので、ご了承ください。

所属： _____ 学部 _____ 専攻 _____
 年齢： _____ 歳
 性別：(男・女) どちらかに○つけてください。

【調査の留意点】
 選択項目には、「当てはまるものに○をつけてください」というものと、以下のような尺度を用いて、「もっとも近い番号に○をつけてください」というものがあります。尺度の場合は、該当する番号に○を付けてください。

■ 良い例○
 今年の夏はとても暑かったですか？ 思いませんでしたか？ もっとも近い番号に○をつけてください。
 暑 1 2 3 4 5

■ 悪い例×
 今年の夏はとても暑かったですか？ 思いませんでしたか？ もっとも近い番号に○をつけてください。
 暑 5 4 3 2 1

【お問い合わせ先】
 〒107-0062
 東京都港区南青山6-7-13 フィラージュ南青山1202 株式会社企業統括研究開発所 受付
 非常勤講師 水野明貴

1 ページ

ここから先は、ビデオ見たのち、
指示があつてから、ご回答ください。

3

3 ページ

【質問1】
 あなたはタバコを、どのくらい吸いますか？ または、吸いませんか？ 該当するものどちらか1つに○をつけてください。
 1. 吸う (1日20本以上) 2. 吸う (1日10～19本) 3. 吸う (10本未満) 4. 吸わない

■ 質問1で、「1. 吸う (1日20本以上)」、「2. 吸う (1日10～19本)」、「3. 吸う (10本未満)」と回答された方におかがいます。

【質問1-1】
 あなたは、禁煙したいと思いませんか？ 思いませんか？ 該当するものどちらか1つに○をつけてください。
 1. 思う 2. 思わない

理由 (複数の理由記述可能)

■ 質問1で、「4. 吸わない」と回答された方におかがいます。

【質問1-2】
 あなたは、タバコを吸いたいと思いませんか？ 吸いたくないと思いませんか？ 該当するものどちらか1つに○をつけてください。
 またその理由を簡明にお聞かせください。
 1. 吸いたくない 2. 吸いたくはない

理由 (複数の理由記述可能)

【質問2】
 あなたの家族にタバコを吸う人はいますか？ いませんか？ 該当するものどちらか1つに○をつけてください。
 1. いる 2. いない

【質問3】
 あなたの友人にタバコを吸う人はいますか？ いませんか？ 該当するものどちらか1つに○をつけてください。
 1. いる 2. いない

【質問4】
 あなたのタバコに対するイメージはどのようなものですか？
 自由にお答えください。(複数の理由記述可能)。

1

2 ページ

【質問5】
 あなたは、このビデオを見た後、タバコを吸いたくありませんか？ 吸いたくありませんか？ もっとも近い番号に○をつけてください。

暑 1 2 3 4 5 思わない

【質問6】
 あなたは、このような「喫煙の害」に關するビデオや映画を、過去に学校で見たことがありますか？ ありませんか？ 該当するものどちらか1つに○をつけてください。

1. ある 2. ない

■ 質問6で、「ある」と回答した方におかがいます。

【質問6-1】
 それはどこで見たか？ 該当するものに○をつけてください。(複数回答可能)。

1. 小学校 2. 中学校 3. 高校 4. 専門学校 5. 大学 6. 家庭 7. その他どこで見たか欄にお書きください。

以上です、ご協力ありがとうございました。

3

4 ページ